

### 第3 障害者スポーツ文化センター横浜ラポール運営事業

市内唯一の障害者スポーツ・文化・レクリエーション振興の中核拠点施設として、地域や利用者のさまざまな状況に即した事業を行いました。運営の基本理念を「リハビリテーションサービスの向上」、「豊かな人生への支援」、「共生社会実現への取組」と定め、本事業団内の各部門との連携を基軸に、リハビリテーション・スポーツ及び文化事業を核とした各種プログラムの展開、多様な地域資源(横浜市体育協会、各種競技団体、民間企業等)との連携に基づいた事業を推進しました。

今年度は、第3期指定管理期間の初年度として、指定管理選定時に策定した目標の達成に向けたスタートダッシュを行うべく、事業の推進を行いました。

また、プールの利用時間の拡大や、ハマピック参加費の当日徴収方法の変更、ホームページでの動画コンテンツの拡充等、利用者サービスのさらなる向上に努めました。

スポーツ事業では、アスリート育成の取組として、横浜市スポーツ医科学センターと連携したトレーニングプログラムを開始するとともに、リオパラリンピックに参加するアスリートに対し、助成金の交付を行いました。また、引き続き横浜マラソンの寄附金を活用して、横浜市立の小中学校に対するスポーツ体験会等を実施することにより、障害者スポーツの理解を深める活動を積極的に行いました。

文化事業では、リハセンターと連携し、QOLと自立生活の向上を目的として行っている教室等の内容や回数等の見直しを行うことで余暇活動の機会を増やし、社会参加促進を行うとともに、障害のある中高生向けの教室やプログラム等の充実を図りました。

聴覚障害者情報提供施設では、手話通訳等の派遣事業、聴覚障害者相談等の事業について、増大するニーズへの安定的な対応に努めました。また、テレビ電話を使用した遠隔手話通訳サービス等、障害者差別解消法の施行に伴う横浜市の新規事業について、横浜市及び団体と密に連携しながら円滑な事業実施のための環境整備を図りました。

今年度の開館日数は345日で、施設利用者数は延べ444,623人(昨年度延べ453,135人)と昨年度に比べ若干減少し、1日平均約1,289人の利用がありました。来年度にも開館からの、延べ利用者数が1,000万人を突破する見込みです。

## 1 施設運営事業

### (1) 運営方針

障害者等のグループ(団体)または個人による自主的なスポーツ・文化・レクリエーション活動を支援するため、各スポーツ・文化施設の貸出と管理を行いました。

広報については、港北区役所掲示板や広報紙「ラポラポ」、広報動画「横浜ラポールのご案内～施設編～」(YouTube)、インターネット等をとおして、ラポールの事業を紹介し、障害者の社会参加の促進を図りました。

### (2) 平成 28 年度における重点的な取組

#### ア 安全で快適な施設運営の基盤整備

不測の事態にも冷静で的確な対応ができるよう、利用者や各団体も参加した実践的な防災・消防訓練の定例的な実施や、港北警察署による対不審者実地研修を行うなど、職員の危機管理意識を高めました。また、開館より 20 年以上が経過した施設の老朽化に対しては、今年度は非常放送設備の入れ替え等を行いました。この他、空調の調湿機能を整備し、館内でより快適に過ごして頂けるよう努めました。

#### イ 利用者サービスの向上

利用者の意見を随時取り入れながら、サービスの向上を念頭に施設運営を行いました。特に毎週火曜日を点検のために利用停止としていたプールについては、休館日以外の火曜日を利用可能としたことで、利用者ニーズに対応するとともに、利用者数の増加にも繋がりました。また、貸出施設の無線 LAN 環境の拡充を図るため、ラポール座及び小会議室に整備を行うとともに、引き続き総合受付前のモニターを使用し、様々な情報提供を行いました。

#### ウ 経営感覚を持った管理・運営と利用率向上に向けた取組

施設の運営にあたって利用者のサービス向上を前提に効率的な執行を行い、利用人員増への取組を行いました。具体的には、ボウリング投げ放題の通年実施や、近隣企業へのダイレクトメールや近隣特例子会社に対して施設案内を発送し、利用促進を図りました。

また、空調設備(熱交換機)整備による空調運転の高効率化や地下グラウンド照明の LED 化を通して光熱水費の低減を図りました。

#### エ 広報事業の拡充

港北区役所内の掲示板に継続的に設置しているラポール(本事業団)専用コーナーに、お知らせやイベント情報を掲示しました。また、ユニバーサルデザインを取り入れた広報紙「ラポラポ」を毎月発行・配布し、発送先の拡大を行いました。「ラポラポ増刊号」では、全国障害者スポーツ大会の横浜選手団の結果報告を行い、大会期間中はロビーにて大会競技の速報を掲示しました。

さらに、インターネットを活用して施設紹介動画や各種イベント情報等を定期的に各種の情報発信しました。

## 2 スポーツ振興事業

### (1) 運営方針

「みんな笑顔！」の理想を実現するため、「重度支援」「自立支援」「地域支援」を基本的な指針としながら、「フィールドは横浜市域！」を意識した事業を展開しました。

### (2) 平成 28 年度における重点的な取組

#### ア 障害者のスポーツ振興

市内の公立学校を中心とした「障害者スポーツ体験」を 44 校（目標は 50 校）で実施しました。また、障害者のスポーツ団体が行う各競技の普及活動の支援や、新たな競技団体の育成に向けた取組を卓球競技で行いました。さらに、アスリート育成の取組として、横浜市スポーツ医科学センターと連携したトレーニングプログラムを開始しました。

#### イ 健康・体力づくりとリハビリテーション

リハセンターの医師、体育指導員とラポールのスポーツ指導員、保健師、栄養士がチームで行う健康づくり教室等を実施しました。開館時から比べると成人、小児共に変化している対象者の障害やニーズに対応するプログラムを行っています。例えば療育部門のニーズに対応し、運動の楽しさを教える子供向けの教室の開催や、脳血管障害を主な対象としていた成人の初心者教室に、難病系や脊髄損傷、精神障害等の方々が参加する等の取組を行いました。

#### ウ 3 層構造（理解者層・ボランティア層・指導者層）で進める人材の育成

横浜マラソンのプレイベント、ヨッテク、ラポールの祭典等、多くの方々が集まる場所で障害者のスポーツに関する周知活動や障害者スポーツの体験会等を開催しました。

また、横浜市をはじめとする行政機関や、横浜市体育協会、競技団体、大学等からの依頼に基づいた各種研修を行うと共に、スポーツボランティア養成講座や初級障害者スポーツ指導員研修会等を実施しました。

なお、ヨッテク等のイベントにあわせて行った体験会等を除いた、各種研修会における年間の参加者は、合計 3,106 人（理解者層 2,577 人・ボランティア層 399 人・指導者層 130 人）となりました。

#### エ 東京 2020 パラリンピックを見据えた普及・啓発

横浜マラソンの寄付金を活用して、リオパラリンピックに参加するアスリートに対する助成金の交付を行いました。また、出場選手の健闘ぶりを幅広くアピールするため、リオパラリンピックの撮影を行った写真家による写真展を開催し、東京 2020 パラリンピックへ繋げる取組を行いました。

### (3) 事業内容

#### ア スポーツ相談・健康相談・栄養相談・医事相談

ラポールを利用する人に対し、各種教室や施設の紹介、スポーツを行う上で必要な健康相談、栄養相談、医事相談等を行いました。

## イ リハビリテーション・スポーツ

医学的リハビリテーションと社会リハビリテーションの中間に位置するリハビリテーション・スポーツを、リハセンターと連携しながら実施しました。

### <リハビリテーション・スポーツ>

プログラム	内 容	回数	参加者数
各種相談	スポーツ相談や健康相談等	508回	508人
リハ・スポーツ教室(学齢)	学齢発達障害児を対象とする教室	15回	86人
リハ・スポーツ教室(高次脳)	高次脳機能障害者を対象とする教室 やフォローアップ	49回	2,048人
リハ・スポーツ教室 <sup>1)</sup> (リハセンター連携プログラム)	リハセンターと連携した成人期の肢 体不自由者に対するグループ指導	19回	167人
初心者スポーツ体験教室(成人)	様々な障害の方を対象に数種目を 体験する初心者向けの教室	31回	168人
健康栄養教室 (ヘルシークッキング)	生活指導・栄養指導・運動指導を 組合わせた健康づくり教室	6回	25人
個別指導	障害に応じたマンツーマン指導	567回	567人
学齢障害児支援(肢体不自由)	学齢児のスポーツ体験(卓球・ボッチャ)	5回	39人
旅リハ教室	旅リハの参加に向けた教室等	3回	30人
体力診断(体力測定)	リハ・スポ教室(成人)の参加者を主 な対象とする体力測定	2回	65人
合 計(昨年度)		3,703人(3,643人)	

- 1) リハセンターの発達支援部と連携し、脳性麻痺を中心とする肢体不自由のケースに対し、定期的にラポールで活動する機会をつくり、仲間づくりとともに活動的な生活への支援を行いました。

## ウ スポーツ・レクリエーション

初心者を中心とした導入部の教室は、ラポールのスポーツ指導員が中心に指導し、対象者の障害や体力レベルに応じた、きめ細かいサポートを行いました。

初級から中・上級に至るまで、各種目の技術向上を図る教室では、外部組織の指導者(体育協会や各競技団体)が主に指導を行うように促し、障害者スポーツに携わる指導者の拡充にも繋がるよう展開しました。

### <スポーツ・レクリエーション教室>

プログラム	内 容	回数	参加者数
卓球教室	卓球の初心者・初級者の教室	24回	798人

卓球教室(上級者)	卓球の上級者を対象とする教室	24回	397人
水泳教室(はじめてプール)	水泳の初心者を対象とする教室	7回	9人
水泳教室	水泳の初級者レベル対象の教室	15回	119人
水泳教室(上級)	水泳の上級者を対象とする教室	15回	81人
水泳教室(選手クラス)	水泳の競技選手を対象とする教室	19回	380人
ボウリング競技 (アスリート養成講座)	ボウリングの上級者対象の教室	12回	90人
ジュニアダンス教室	発達障害の学齢女子を対象とする ダンス教室	34回	1,448人
横浜 F・マリノス futuro	マリノスと協働で開催している知的 障害者のサッカー教室	45回	1,976人
アウトドアスポーツ教室	ヨットの体験乗艇を行う教室	4回	13人
合 計(昨年度)		5,311人(4,833人)	

<スポーツ・レクリエーションの時間>

プログラム	内 容	回数	参加者数
フライングディスクの時間	フライングディスクを楽しむ時間	16回	599人
オリジナルスポーツの時間	ラポールで独自に開発したビンゴボ ールやターゲットボッチャ等のスポ ーツを楽しむ時間	44回	704人
卓球の時間	卓球を楽しむ時間	20回	400人
ボッチャの時間	ボッチャを楽しむ時間	12回	72人
合 計(昨年度)		1,775人(1,652人)	

※スポーツ・レクリエーションの時間については、普及・振興状況や地域での拡充等を鑑みて、随時実施競技やプログラムの見直しを行っていきます。

エ スポーツ大会・交流イベント

記録への挑戦・トレーニング成果の発揮・相互理解と交流を目的として「ハマピック」を開催しました。交流が主たる目的のスポーツイベント「フェスタ」では、日ごろの練習効果を競いつつ、家族や仲間とのふれあいを楽しむ場として開催しました。

<第21ハマピック>

プログラム	内 容	回数	参加者数
アーチェリー	身体障害・内部障害を対象とした アーチェリー競技	1回	7人

ボウリング	知的障害・精神障害を対象としたボウリング競技 (港北とうきゅうボウル)	1回	69人
卓球(STT含む)	身体障害、知的障害、精神障害、 内部障害を対象とした卓球競技	1回	76人
水泳	身体障害、知的障害、精神障害、 内部障害を対象とした水泳競技	1回	163人
フライングディスク	身体障害、知的障害、精神障害、 内部障害を対象としたフライング ディスク競技 (新横浜公園投てき練習場)	1回	44人
陸上	身体障害、知的障害、精神障害、 内部障害を対象とした陸上競技 (三ツ沢公園陸上競技場)	1回	229人
バスケットボール	知的障害を対象とした バスケットボール競技	1回	90人
ソフトボール	知的障害を対象としたソフトボール 競技(保土ヶ谷公園野球場)	1回	30人
バレーボール	知的障害を対象とした バレーボール競技	1回	59人
サッカー	知的障害を対象としたサッカー競技 (しんよこフットボールパーク)	1回	64人
合 計(昨年度)		831人(1,184人) <sup>1)</sup>	

※ 内容欄で会場の記載がないものについては、ラポールの施設で行いました。

※1) 昨年度と比較して約 350 人の減少は、バスケット・バレーボール・サッカー等の団体競技への参加チームが少なかったことが主な要因です。

#### <スポーツ・フェスタ>

プログラム	内 容	回数	参加者数
水泳の日	どなたでも参加が可能な水泳の記録会	1回	260人
バスケットボールの日	どなたでも参加が可能な バスケットボールの競技会	1回	97人
ボウリングの日	障害のある方と介護者、家族を 対象とした記録会	3回	76人

卓球の日	どなたでも参加が可能な卓球の競技会	1回	77人
フライングディスクの日	どなたでも参加が可能なフライングディスクの競技会	1回	46人
ボッチャの日	どなたでも参加が可能なボッチャの競技会	1回	95人
サッカーの日	どなたでも参加が可能なサッカーの競技会	1回	146人
合 計(昨年度)		797人(856人)	

<各種リーグ戦や記録会>

プログラム	内 容	回数	参加者数
卓球競技会	一般卓球やサウンドテーブルテニスの競技力向上を目的とした競技会	2回	110人
卓球交流会	卓球やサウンドテーブルテニスを広く楽しむための交流会	1回	62人
ボッチャ交流戦	ボッチャの競技力向上を目的とした競技会	6回	125人
フライングディスク記録会	フライングディスクの競技力向上を目的とした記録会	2回	73人
ボウリング記録会	ボウリングの競技力向上を目的とした記録会	12回	287人
全国大会強化練習	横浜市代表選手を対象に競技力の向上を図る練習会	49回	399人
合 計(昨年度)		1,056人(762人)	

<第16回全国障害者スポーツ大会の実績>

期 間：平成28年10月22日～10月24日

開 催 地：岩手県

派遣人数：選手54人・役員36人の合計90人

成 績：金=42個、銀=14個、銅=9個 大会新記録=6個

メダル獲得率：全国第2位 金メダル獲得率：第2位

※ メダル獲得率及び金メダル獲得率の各順位は、47都道府県と20政令市の全67チームにおける結果です。

オ 人材育成

障害者のスポーツを支える人材を「理解者層」「ボランティア層」「指導者層」の3層構造で捉え、各層にあった研修等のプログラムを実施し、人材の育成や確保に努めます。

<各種研修>

プログラム	内 容	回数	参加者数
障害者スポーツ・ボランティア養成入門講座	原則 15 歳以上、横浜市に在住のボランティア活動希望者を対象とした研修会 <sup>1)</sup>	6 回	47 人
初級障害者スポーツ指導員養成講座	原則 18 歳以上、横浜市に在住のスポーツ・ボランティア養成入門講座受講者またはスポーツ・レクリエーションの指導を行っている方を対象とした研修会	4 回	176 人
ステップアップ研修会	横浜市域の障害者のスポーツ活動を支援するボランティアや指導者に必要な知識と技術の向上を図る研修会	5 回	94 人
障害者スポーツ体験研修会	横浜市内の学校を中心に小中学生や教職員へ障害者スポーツの理解を深める体験研修会	44 回	9,019 人 <sup>2)</sup>
地域スポーツ団体研修会	横浜市体育協会や地域ボランティア等を対象にした実践的な研修会	18 回	571 人
大学機関への障害者スポーツ研修会	横浜市内外の大学に対する講義・実習、卒論研究協力等による普及啓発	16 回	374 人
行政職員や企業向けの障害者スポーツ研修会	行政や企業の職員に対し、障害者スポーツの普及啓発を図る研修会	6 回	33 人
中学生・高校生職場体験	中学生や高校生がラポール各課の見学や体験をとおり、職業について学ぶ研修	4 回	24 人
職場内研修	本事業団職員の新人研修とラポールスポーツ指導員のスキルアップ研修	2 回	44 人
非常勤職員研修	スポーツ施設非常勤職員向けのプールにおける救助法や手話研修等	30 回	64 人
合 計(昨年度)		10,446 人(5,428 人) <sup>2)</sup>	

1) はじめての試みとして、港南区社協と連携した地域版のボランティア研修を行いました。

2) 横浜マラソンの寄附金等を活用し、市内の公立学校を中心とした体験研修会を積極的にを行い、実施回数、参加人数が大幅に増加しています。

カ 地域支援

地域の様々な組織と連携し、身近な場所でスポーツを楽しむ環境を整えました。比較的取り組みやすい「卓球」、「ボッチャ」、「グラウンドゴルフ」等の種目を中心に、



参加者のニーズや地域の状況にあわせて事業を進めました。

<地域支援>

プログラム	内 容	回数	参加者数
スポーツ教室	原則、地域の障害者を対象としたスポーツ教室	32回	411人
フォローアップ	ラポールのこれまでの取組により、地域で自主的なスポーツ活動を開始したサークル等に対する支援	21回	386人
研修	地域のボランティア等を対象とした研修	4回	152人
介護予防系プログラム	主に高齢者を対象としたプログラム	9回	142人
その他	原則として地域の障害者を対象とした出張スポーツ指導や、地域間交流スポーツ大会等の開催	91回	1,407人
上記以外の派遣 <sup>1)</sup>	様々な地域からの依頼に基づく職員派遣	99回	
合 計(昨年度)            2,498人(3,091人) <sup>1)</sup>			

1)これまで、ラポールで実施してきた地域支援と同様の形態に関しては、徐々に実施回数、参加人数が減少しています。一方で上記の表に含まれない様々な地域からの依頼に対して、計 99 回の職員派遣を行っており、実質的な支援回数は昨年度の 202 回に対し、256 回と約 50 回の増加です。なお、これらの支援では、参加者数の把握はしていません。

キ 新しい取組

リハセンターの療育部門と連携し、ラポールグラウンドを利用して、テント体験や屋外での食事等のキャンプ体験教室を開催しました。今後は、横浜市内の施設と連携し、実際のキャンプ活動へ展開していく予定です。

横浜マラソンの寄附金を活用したアスリート育成における、横浜市スポーツ医科学センターとの連携を開始しました。今年度は、初の試みとして、国際レベルの 2 名の選手が特定指名選手に任命され、トレーニング指導を中心とした支援を受けています。今後は、お互いの協力関係の中でノウハウを共有しつつ、少しずつ対象選手の拡大を図っていく予定です。

ハマピックの運営上で課題となっていた、参加費の当日徴収を、券売機やゆうちょ銀行への振込みという形にへ変更した結果、当日の受付作業の効率化が進み、参加者からも好評でした。今後は、更なる利便性向上を検討していきます。

### 3 文化振興事業

#### (1) 運営方針

障害者の文化活動発表の場である「横浜ラポール芸術市場」や障害児のおもちゃ遊びを支援する「おもちゃ図書館」等、多様な文化体験ができる「観る・聴く・楽しむ」場を提供しました。また、文化活動を支援する人材の確保・育成に努めました。

#### (2) 平成 28 年度における重点的な取組

##### ア リハビリテーション・カルチャー（リハカル）の推進

リハセンターと連携し、QOL と自立生活の向上を目的とした文化活動として「キッチンスタジオ」「失語症の方のための会話サロン」の実施と、毎回多数の応募がある「バリアフリークッキング料理教室」は、内容や回数等を見直し障害者の余暇活動の参加の機会を増やし、その後のフォローアップも連動させて、社会参加の促進に繋げました。

##### イ 障害のある中高生を対象にした文化講座の充実

障害のある中高生の余暇活動支援及び新たな利用者の獲得として、「陶芸教室」「料理教室」等について、引き続き各プログラムを実施し、保護者へのサポートを含め、質・量共に充実を図りました。

##### ウ 文化活動支援の拡充

平成 28 年度は、横浜市によるイベント「横浜芸術アクション事業」との協働等を行いました。これは、横浜らしい特色のある芸術フェスティバルとして、東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムを視野に入れた事業で、今回は「横浜音祭り 2016」として、障害の有無に関わらず楽しめるコンサート等に協力し、文化活動支援の拡充を図りました。

#### (3) 文化企画事業

障害者の文化活動発表の場である「横浜ラポール芸術市場」、ラポールシアターでのコンサート等の他、どなたでも気軽に参加できる「ラポールファクトリー」を開催しました。また、さまざまな文化教室・ワークショップ、陶芸作品の窯焼きを毎月実施しました。

##### ア 文化振興事業

障害者の文化活動の発表や地域交流の場である「横浜ラポール芸術市場」の開催にあたり、作品・出演者を広く公募し、日頃の活動が発表できる場としました。

10 月 24 日～12 月 17 日の期間中に、9 のイベントプログラムを開催し、延べ 3,930 人が参加しました。

<横浜ラポール芸術市場>

プログラム	内 容	回数	参加者数
ラポール美術展	障害のある方の絵画、写真、書、陶芸等約 500 点の作品の展示会。同時に「さをり織り」やチョークアートなどのワークショップを併催 (10月24日～10月30日)	1回	2,289人
ドリーマーズステージ	障害のある方が参加している日本舞踊や器楽合奏等の4組のグループによる合同発表会 (10月30日)	1回	203人
ジョイフルフェスタ	障害のある方が参加している太鼓や歌等5組による発表会(11月3日)	1回	237人
DANCE&MUSIC FAIR2016	障害のある方が参加している5グループによるダンスと器楽演奏の発表会(11月13日)	1回	289人
音楽の日	障害のある方が参加している合奏、コーラスの7組による発表会、横浜音祭り2016連携イベントの中心として実施(11月23日)	1回	177人
みんな de パソコン	障害者のパソコン利用支援グループ「ドリームナビゲーター横浜」による、パソコンを使った缶バッチづくりやICT相談会 ※パソコン相談会と併催(11月26日)	1回	89人
野点	自主サークル「ラポールお茶の会」によるお点前披露(11月27日)	1回	90人
ハートフルコンサート	障害者によるピアノ演奏や器楽合奏、ダンス等の9組の合同発表会(12月3日)	1回	232人
クリスマスステージ2016 ダンスだよ！ 全員集合 PART2	ラポールで活動している障害者グループによるダンスの発表会(12月17日)	1回	324人
合 計(昨年度)			3,930人(3,523人)

イ 交流事業

さまざまな団体と共同企画し、障害の有無に関わらず、多くの人々が楽しめるイベントを幅広い文化領域にわたって開催しました。また、劇団四季出身者が中心となって活動している心魂プロジェクトと事業協力を行い、障害があってもなくても楽しめるプログラムの開発を行いました。

16のイベントプログラムを開催し、延べ3,344人の参加がありました。また、1階ロビーではラポールファクトリーを7回開催し、延べ389人の参加がありました。

<自主・共催企画事業>

プログラム	内 容	回数	参加者数
心魂プロジェクト公演 ミュージックシヤワープラネタリウム×ヨガ or 太極拳	劇団四季や宝塚歌劇団出身者を中心としたパフォーマンス団体メンバーによるストレッチをしながらプラネタリウムの映像と生の音楽を楽しむ公演を開催（4月29日・30日）	2回	147人
ビッグ・アイアートプロジェクト 「共振×響心」展	国際障害者交流センターとの共催による、国内外の障害者アーティストの入選作品展（5月11日～5月15日）	1回	1,053人
横浜交流音楽祭	アマチュアとプロ、さらに障害者の演奏家による市民手づくりの音楽交流フェスティバル（5月28日）	1回	183人
福祉レクリエーションフォーラム in 横浜ラポール	全国福祉レクリエーション・ネットワーク、日本レクリエーション協会との共催による、障害者や高齢者のレクリエーション活動を支える方々を養成するフォーラムを開催（6月11日・12日）	2回	84人
ドキュメンタリー映画上映会「ちづる」	重度の知的障害と自閉症をもった妹とその母を1年に渡り撮り続けた 映画会を実施（6月12日）	1回	62人
心魂プロジェクトミュージカル公演『扉』	劇団四季や宝塚歌劇団出身者を中心としたパフォーマンス団体による障害の有無に関わらず楽しめる完全オリジナルミュージカル公演（6月25日）	2回	225人
ダンスワークショップ「響と踊ろう」	クリエイティブ・アート実行委員会と共催による障害の有無に関係なく即興で創るダンスワークショップ（7月10日、9月25日）	2回	45人
夏休み字幕付き映画上映会「ひまわりと子犬の7日間」	聴覚障害の方にも楽しんでいただけるよう、字幕サークルが日本語字幕を付けた映画会（8月21日）	1回	109人
国際親善交流特別演奏会	日本音楽文化交流協会共催による、障害者を無料招待したクラシックコンサート（10月1日）	1回	235人
ラポール寄席	新横浜ライオンズクラブ共催により、障害者と地元市民の交流とパラリンピック支援を目的として実施（10月16日）	1回	161人
アフタヌーンコンサート	シアターホワイエを活用したボランティア団体によるクラシックコンサート（11月12日）	1回	45人

心魂ワークショップ	様々な病気と向き合う子供を中心に、プロのアーティストと同じ舞台を踏むため、ワークショップを実施。ヨッテクおよびクリスマスフェスティバル 2016 にて披露	8回	91人
心魂プロジェクト公演『クリスマスフェスティバル 2016』	劇団四季や宝塚歌劇団出身者を中心としたパフォーマンス団体による障害の有無に関わらず楽しめる歌と踊りの公演(11月27日)	1回	320人
心魂プロジェクト公演『プラネタリウムハーモニー』	シアター内にプラネタリウムドームを入れ、その中でプロのアーティストが歌うコンサートを実施。(1月28日・29日)	5回	158人
わくわくステージマーケット	市内で活動している障害者グループによるミュージカルの発表会(2月18日)	1回	217人
字幕付き映画上映会「母と暮せば」	聴覚障害の方にも楽しんでいただけるよう、字幕サークルが日本語字幕を付けた映画会(3月12日)	1回	209人
合 計(昨年度)		3,344人(2,794人)	

<ラポールファクトリー>

プログラム	回数	参加者数
楽しいマジック&かわいい腹話術	7回	62人
ロビーマジックショー		47人
ビオラとギターで楽しむラテンの世界		60人
歌&ヴァイオリン&チェロ トリオコンサート		51人
トーンチャイムの響き		56人
みんなで聴こう!クリスマスコンサート		64人
無礼面の音楽会		49人
合 計(昨年度)		389人(398人)

※ 年間7回土曜日の昼休みに、ロビーを利用したパフォーマンスを開催しました。

#### ウ 協力事業

障害の有無に関わらず広がる催事に対し、他団体と連携し協力事業として実施しました。

プログラム	内 容	回数	参加者数
横浜桜座公演 「チリンのすず」	ラポールで実施した演劇ワークショップ修了者で構成された劇団の公演に日本語字幕を作成し情報提供しました。(3月26日)	2回	190人
合 計 190人			

#### エ 自己啓発事業

障害者の創作活動や余暇活動の支援、日常生活の技術的な支援を図るため、対象者やテーマ別に各種の教室・体験会を開催しました。16の教室を開催し、延べ1,376人の参加がありました。陶芸窯焼成については、9回開催し、延べ278人の参加がありました。バリアフリークッキングは、毎回定員を超える応募のため実施回数を今年の6回から倍の12回に増やしました。

#### <リハカル教室> ※専門職の配置があるリハビリカルチャー教室の意味

プログラム	内 容	回数	参加者数
失語症の方のための 会話サロン	リハセンターの言語聴覚士と連携し、ST訓練を経た失語症者に対して、テーマに沿った座談会を支援するプログラム(月1回)	12回	157人
失語症の女性のための 会話サロン	リハセンターの言語聴覚士と連携し、ST訓練を経た失語症の女性に対して、テーマに沿った座談会を支援するプログラム(月1回)	12回	57人
キッチンスタジアム in ラポール	リハセンターの作業療法士・SWと連携し、片麻痺の方を対象とする調理の工夫を盛り込んだ月1回3か月コースの料理教室 第1期：5月～7月、第2期：11月～1月	6回	42人
合 計 256人			

#### <料理教室>

プログラム	内 容	回数	参加者数
ラポールバリアフリー クッキング	外部講師を迎え、栄養や調理等について学びながら、参加者で協力して手軽で健康的なメニューに取り組む料理教室。 (5・7・9・11・1・2月に2日間ずつ開催)	12回	157人

バリアフリークッキング in アートフォーラムあざみ野	「男女共同参画センター横浜北」との共催で、主に障害のある男性を対象にした出張料理教室(6月11日・18日)	2回	23人
バリアフリークッキング in 南太田	「男女共同参画センター横浜南」との共催で、主に障害のある男性を対象にした出張料理教室(12月3日・17日)	2回	22人
キッチンスタジアム in ラポール [再掲]	リハセンターの作業療法士・SWと連携し、片麻痺の方を対象とする調理の工夫を盛り込んだ月1回3か月コースの料理教室 第1期：5月～7月、第2期：11月～1月	6回	42人
おやつめし ※新規事業	午前小学生、午後は中高生以上の親子を対象とし、おやつ、食事の栄養バランスや調理の手軽さを考えた料理教室。各日2回。 (6月4日・10月1日・12月3日・2月4日)	8回	93人
合 計		337人	

<アート系プログラム>

プログラム	内 容	回数	参加者数
アートサロン	主に高校生以上の中途障害者を対象にした平日実施の絵画教室	9回	112人
ものづくり広場	主に高校生以上の知的障害者を対象にした絵画や工作が中心の教室	9回	122人
図工の時間	主に小学生以上の身体障害者を対象にした絵画や造形作品を制作する教室	9回	104人
夏休み 親と子の工作教室	神奈川県建設一般労働組合横浜支部の協力により、夏休み恒例の親子で楽しめる木工やタイル細工の教室(7月24日)	1回	30人
おちゃっぴと粘土であそぼ ※新規事業	主に若年層を対象とした夏休み特別企画。粘土の工作教室(8月18日)	1回	26人
ハンドメイド&ホビーマルシェ in ラポール ※新規事業	地域で活躍するハンドメイド作家の指導による各種ワークショップ(9月24日)	1回	154人
陶芸1日体験教室 (初心・初級・親子・中高生・釉かけ) [再掲]	片麻痺、視聴覚障害、障害児等年齢や障害の特性に配慮した陶芸体験会	16回	171人

陶芸サロン	陶芸初心者のためのフォローアップとして サロン形式で実施	12回	64人
合 計		783人	

教室等(料理,リハカル,アート)合計	1,376人(1,137人)
--------------------	----------------

#### <陶芸窯焼成>

プログラム	内 容	回数	参加者数
陶芸窯焼成個人	個人利用者が対象の素焼きと本焼き(有料)	6回	264人
陶芸窯焼成大物	20cm以上の大物作品の焼成	3回	14人
合 計(昨年度)		278人(333人)	

#### (4) おもちゃ図書館事業

おもちゃ図書館事業では、障害児が地域や家庭で遊びの幅を広げられるよう多様なおもちゃを保管し、遊びの場を提供するとともに、障害児及び障害児関連団体等を対象におもちゃ等の貸出を行いました。団体貸出先の内訳は、特別支援学校(学級)、リハセンター、地域療育センター、放課後デイサービス事業所、障害児訓練会、当事者グループ等です。おもちゃ図書館の利用者数は11,501人(昨年度11,250人)で、そのうち団体利用は711人(昨年度733人)でした。

また、おもちゃ病院や夏休み期間のおもちゃ展、季節の行事等のイベントを実施しました。参加者数はカウントできませんが、中学生以上の方も気軽に遊べるよう、おもちゃ図書館前のロビーにゲームやパズル等を設置し、多くの方がご利用されています。

##### ア おもちゃ・紙芝居・書籍類の貸出

内 訳	貸出数(昨年度)
個人貸出 (障害児・保護者等)	2,031点(3,038点) 987人(1,325人)
団体貸出 (療育機関・訓練会等)	2,370点(2,333点) 400団体(413団体)

##### イ 行事・イベント等の実施

プログラム	内 容	回数	参加者数
おもちゃ病院	個人や団体・ラポールの壊れたおもちゃ計 395点をワイワイおもちゃドクターズのボ ランティアが修理	13回 (13回)	個人 89人 団体 45件



みんなのお楽しみ会	第2土曜日に実施する、お誕生月の児童のお祝いのための手遊びやマジック	11回 (10回)	208人 (164人)
工作ひろば	第2土曜日に実施する、年齢問わず参加できる簡単な工作の会	4回 (7回)	162人 (288人)
世界のバリアフリーの絵本展 2015	IBBY（一般社団法人日本国際児童図書評議会）障害児図書資料センターの2015年度のコレクション21か国50タイトルを紹介する巡回展。（6月17日～26日）	1回	— 1階 ロビー展示
わくわくボックス	縁日ごっこやクリスマスをテーマに、ボランティアや演奏グループが中心となり開催する遊びの会 (7月2日・12月10日)	2回 (1回)	94人
四季の工作	貝殻や木の実等の自然素材を利用した工作教室 講師：黒川伸人(8月6日)	1回 (2回)	37人
夏休み トミプラ広場	車や電車のおもちゃを思う存分楽しめるスペースを設定。タカラトミー協力。 (8月17日～19日)	1回	137人
夏休み 光のおもちゃ展	3日間限定で車や電車のおもちゃを思う存分楽しめるスペースを設定。タカラトミー協力。 (8月17日～20日)	1回	173人
杉本聖奈 ぬり絵体験会	聴覚障害がある画家のぬり絵のコーナー、年齢問わず参加可能。 (8月17日～19日)	1回	96人
辰己雅章 きり絵体験会	自主グループを指導する講師によるきり絵体験のコーナー、年齢問わず参加可能。 (3月25日)	1回	48人
ラポールの祭典	神奈川県内のおもちゃ図書館ボランティアによる遊びや工作教室(9月6日)	1回	600人
合 計(昨年度)		1,689人(3,113人)	

## (5) 情報ネットワーク

パソコン等の情報端末をとおして、社会参加のための情報収集・提供やコミュニケーションの支援を行いました。

### ア ホームページの運営

ラポールのイベント情報等を中心とした、ホームページのコンテンツ制作及び運営を行いました。また、館内の全施設の予約状況および個人利用できない施設と日時は運営日に毎日更新し、広報紙「ラポラポ」が閲覧できるページについては月1回の更新を実施しました。また、開催要項や申込書等をダウンロードできる新規ページを開

設するなど、適宜改修を行いました。

【ホームページアドレス <http://www.yokohama-rf.jp/rapport/>】

・運営状況

年間総アクセス件数： 665,485 件（昨年度 711,146 件）

イ 情報バリアフリー支援講座の開催

情報バリアフリーを進めるための講座等を行いました。

<情報バリアフリー支援講座等>

プログラム	内 容	回数	参加者数
パソコン・スマホ・タブレット相談会	パソコンボランティアの協力を得て、初心者を対象としたパソコンやスマートフォン、タブレットの購入・使用方法等に関する相談会	4 回	57 人
夏休みパソコンであそぼ	中高生を対象としてパソコンを使ったオリジナルうちわ作成等の講座(8月27日)	2 回	7 人
ICT 防災・減災講座	ICT(情報伝達技術)を活用した防災・減災対策についての講座(11月26日)	1 回	6 人
スマホ・SNS セキュリティ講座	スマートフォンや SNS 利用時のセキュリティ対策についての講座(3月2日)	1 回	10 人
合 計(昨年度)			80 人(91 人)

(6) 研修会

文化活動を支援する人材の確保・育成のため、サポーターバンク（文化事業ボランティア）や一般の方を対象とした研修会、および障害のある方とその家族を対象とした各種講座を開催しました。

<研修会>

プログラム	内 容	回数	参加者数
陶芸ボランティア研修会	視覚障害者の特性と支援方法について(5月27日)	1 回	13 人
サポーターバンク研修会	失語症の会話支援について(6月25日)	1 回	26 人
杉本聖奈 ギャラリートーク	「聖奈の絵はコトバ～絵も使って思いを伝えあう～」と題し、幼い頃から将来のことを画家と母親が講演。(8月21日)	1 回	45 人
おもちゃ図書館 地域指導者研修会 1	「みんないっしょ～こころのボーダーをなくそう～」講師：水戸川 真由美 (9月19日)	1 回	46 人

ICT 防災・減災講座 [再掲]	防災・減災および災害時における ICT 活用方法について(11月26日)	1回	7人
ビッグ・アイ 災害時要援護者・支援者のための防災・減災講座	被災経験のある視聴覚障害者と救援活動を行う支援者から、災害時における避難・支援活動と防災・減災活動に役立つ知識等を学ぶ講座。国際障害者交流センターとの共催事業(1月24日・25日)	2回	37人
おもちゃ図書館 地域指導者研修会 2	「発達障害の子とハッピーに暮らすヒント～4人のわが子が教えてくれたこと～」 講師：堀内 祐子 発達障害ハッピーサポート代表 (3月29日)	1回	46人
スマホ・SNS セキュリティ講座 [再掲]	スマホ・SNS におけるセキュリティ対策について(3月2日)	1回	9人
合 計            229 人			

<作品展・展示会等>

プログラム	内 容	回数	参加者数
世界のバリアフリーの 絵本展 2015 [再掲]	IBBY (一般社団法人日本国際児童図書評議会) 障害児図書資料センターの 2015 年度のコレクション 21 か国 50 タイトルを紹介する巡回展。(6月17日～26日)	1回	— 1階 ロビー展示
杉本聖奈作品展	聴覚障害がある画家による切り絵の作品展。 (8月17日～21日)	1回	451人
雅きり絵の会作品展	ラポール文化教室出身の自主グループの作品展。講師によるきり絵体験も実施。 (3月22日～28日)	1回	1階 ロビー展示

(7) 地域支援(出張サービス)

地域における障害児・者の文化活動を推進・支援するため、市内の施設等で共催事業等を実施しました。9つの地域支援プログラムを開催し、障害のある方を対象とした事業を中心として延べ2,675人の参加がありました。

<地域支援>

プログラム	内 容	回数	参加者数
バリアフリークッキング in アートフォーラム あざみ野 [再掲]	「男女共同参画センター横浜北」との共催で、主に障害のある男性を対象にした料理出張教室(6月11日・18日)	2回	23人

バリアフリークッキング in 南太田 [再掲]	「男女共同参画センター横浜南」との共催で、主に障害のある男性を対象にした出張料理教室(12月3日・17日)	2回	22人
本事業団利用者作品展 at 横浜市役所	本事業団を利用している方たちの出張作品展を市役所の障害者週間イベントに合わせて実施(11月30日～12月15日)	1回	—
障害のある方の演奏会	市役所市民広間を使った芸術市場参加者による演奏会(12月7日)	1回	—
テュフラインランド ジャパン株式会社「障害のある方の書道展」	民間企業のロビーを利用した書道をテーマにした作品展(12月1日～2月28日)	1回	—
移動おもちゃ図書館「あおばおもちゃの広場」	「あおばおもちゃのひろば」より依頼を受け、青葉区社会福祉協議会との共催で、地域の障害児と健常児の交流を目的に実施しているおもちゃ広場の活動を支援(通年)	59回	1,527人
移動おもちゃ図書館「にこてらす」	瀬谷区子育て支援拠点「にこてらす」より依頼を受け、同所が取り組む障害児支援「にこポンテ」へのおもちゃの搬入出を介した定期的な支援とラポール事業の紹介(通年)	48回	400人
移動おもちゃ図書館「港南センター」	港南センターより依頼を受け、同センターが開催する「センター祭」に出展してラポールの事業を紹介(10月28日)	1回	200人
缶バッジ作成会&防災関係アプリ紹介	ヨッテク会場にて、パソコンを使った缶バッジ作成やタブレットによる防災関係アプリの紹介(7月29日・30日)	2回	503人
合 計(昨年度)		2,675人(2,634人)	

#### (8) 相談・調査対応

障害者差別解消法の施行にともない、公共施設や団体からの障害者対応や施設での対応の各種相談に応じました。また、同様の施設の調査として国際障害者交流センター(大阪府堺市)を視察し、今後の対応への参考としました。

#### (9) 季節行事

利用者に親しまれる館内の景観づくりとして、自己啓発事業の教室でつくられた美術作品を1階ロビーに展示するとともに、利用者の方々にも季節行事に参加していただきました。

5月は「こどもの日」と合わせてこいのぼりの飾り付けや兜の展示、7月の「七夕」では利用者に短冊へ願い事を書いていただき飾り付けました。12月には「クリスマス」の装飾を実施しました。

## 4 聴覚障害者情報提供施設事業

### (1) 運営方針

国の定める「聴覚障害者情報提供施設」として、関係機関・団体や他都市の聴覚障害者情報提供施設と連携し、「手話通訳者・要約筆記者の派遣、紹介」・「手話通訳者・要約筆記者の研修」・「聴覚障害者相談」・「普及・啓発」「ビデオライブラリー」・「視聴覚機器の貸出」等の指定管理事業を実施しました。

派遣事業においては、研修事業（人材育成）と連携した派遣調整を行ない、幅広いニーズに対応できる通訳者層の拡大に努めました。相談事業では、区役所や介護保険事業所等の関係機関との連携に努め、高齢者（独居・夫婦世帯）への支援については、引き続き訪問等の出張相談に積極的に取り組みました。

### (2) 平成 28 年度における重点的な取組

#### ア 手話通訳者体制の整備

年々増大する派遣ニーズに対し、安定的に対応できる手話通訳者体制の整備に努めるとともに、テレビ電話を使用した遠隔手話通訳サービス等、障害者差別解消法の施行に伴う横浜市の新規事業について、横浜市及び団体と密に連携しながら円滑な事業実施のための環境整備を図りました。

#### イ 高齢者（独居・夫婦世帯）への支援

引き続き、計画的な出張（訪問）による相談の拡充を図りました。

#### ウ 情報提供施設事業のさらなる利用促進、聴覚障害に関する理解促進

行政、企業、一般団体からの講師派遣等に、当事者団体と連携し積極的に対応した他、ラポールの祭典等、一般市民対象の行事も利用し、情報提供施設事業の利用促進、聴覚障害に関する普及・啓発に努めました。

### (3) 手話通訳者・要約筆記者派遣事業

聴覚障害者及び音声または言語機能障害者が、社会生活上必要とする場合に手話通訳者または要約筆記者を派遣し、意思の疎通を支援することにより、聴覚障害者等の福祉の増進を図ることを目的として事業を実施しました。

#### ア 平成 28 年度事業の概況

(ア) 派遣・紹介人数 11,464 人（手話通訳 9,436 人・要約筆記 2,028 人）で、派遣・紹介人数としては過去最高でした。

(イ) その他、情報提供施設に来所された聴覚障害の方で、代理電話（電話通訳）を希望された延べ 441 人に対し、延べ 731 件の通訳を実施しました。

#### <手話・要約筆記者別派遣・紹介人数>

通訳者の種類			派遣人数	紹介人数	合計
手話通訳者	非常勤手話通訳者	30人	3,902人	281人	4,183人
	登録手話通訳者	127人	4,396人	812人	5,208人
	情報提供施設職員	9人	45人	0人	45人
	小計	166人	8,343人	1,093人	9,436人

登録要約筆記者	63人	1,591人	437人	2,028人
合計 (昨年度)	229人 (240)	9,934人 (9,391)	1,530人 (1,297)	11,464人 (10,688)

<内容別派遣・紹介人数>

通訳内容	手話通訳者		要約筆記者		合計	
	派遣	紹介	派遣	紹介	派遣	紹介
医療・保健に関すること	5,220	17	195	0	5,415	17
	5,237		195		5,432	
司法に関すること	39	21	4	3	43	24
	60		7		67	
教育・保育に関すること	758	54	30	32	788	86
	812		62		874	
労働・雇用に関すること	252	418	17	126	269	544
	670		143		813	
社会生活に関すること	1,149	59	64	6	1,213	65
	1,208		70		1,278	
自己啓発に関すること	230	10	120	0	350	10
	240		120		360	
福祉推進に関すること	692	514	1,161	270	1,853	784
	1,206		1,431		2,637	
聴覚障害者相談の通訳	3	0	0	0	3	0
	3		0		3	
合計 (昨年度)	8,343 (7,897)	1,093 (910)	1,591 (1,494)	437 (387)	9,934 (9,391)	1,530 (1,297)
	9,436 (8,807)		2,028 (1,881)		11,464 (10,688)	

<公的派遣人数の内訳>

	手話通訳関係		要約筆記関係	
	派遣数	割合	派遣数	割合
医療・保健に関すること	5,220	62.6%	195	12.2%
司法に関すること	39	0.4%	4	0.3%
教育・保育に関すること	758	9.1%	30	1.9%
労働・雇用に関すること	252	3.0%	17	1.1%
社会生活に関すること	1,149	13.8%	64	4.0%
自己啓発に関すること	230	2.7%	120	7.5%
福祉推進に関すること	692	8.3%	1,161	73.0%
聴覚障害者相談の通訳	3	0.1%	0	0.0%
合計	8,343	100.0%	1,591	100.0%

- (ウ) 横浜市消防局に対し救急手話通訳者手配を、神奈川県警通訳センターに対し事件・事故の際の手話通訳者手配を、それぞれ次のとおり協力しました。

<救急手話通訳派遣事業での派遣対応した人数>(公的派遣)

通訳依頼時間	実績(昨年度)	備 考
派遣窓口時間内(9:30~17:00)	14 人(15)	
派遣窓口時間外(17:00~9:30)	27 人(20)	同事業に登録している通訳者 34 人
合 計	41 人(35)	

<神奈川県警通訳センターの事件・事故通訳関係の対応人数>(紹介)

通訳依頼時間	実績(昨年度)	備 考
派遣窓口時間内(9:30~17:00)	12 人(11)	
派遣窓口時間外(17:00~9:30)	1 人 (3)	同事業に登録している通訳者 29 人
合 計	13 人(14)	

- (エ) 障害者差別解消法の施行に伴う横浜市の新たな取組として、区役所への手話通訳者の配置(平成28年度は2区にてモデル実施)が始まり、次のとおり手話通訳者を配置(派遣)しました。

<区役所へ手話通訳者を配置した人数>(公的派遣)

	曜 日	時間帯	延べ配置人数
戸塚区役所(4/6~)	毎週水曜・木曜	13:30~17:00	88 人
中区役所(5/17~)	毎週火曜・金曜	8:45~12:00	97 人

- (オ) 横浜市民が市外で通訳者を必要とする場合は、当該市町村と連携・調整を行ない、広域的な派遣ニーズにも対応しました。

<他都市との通訳者派遣調整>

	横浜から他都市に通訳の手配依頼をしたもの	他都市から横浜に通訳の手配依頼があったもの
医療・保健に関すること	6	14
司法に関すること	1	0
教育・保育に関すること	3	27
労働・雇用に関すること	33	13
社会生活に関すること	23	41
福祉推進に関すること	1	5
合計件数(昨年度)	67(89)	100(72)
事業所数(昨年度)	14(19)	19(19)

<キャンセル・変更等処理件数>

内 容	件数	説 明
通訳者が手配できなかった	11	前日窓口終了後や当日の依頼で派遣不可能等
依頼者からのキャンセル	368	取消・日程変更・主催行事中止・自然災害等
派遣対象外	10	派遣場所が市外で、内容が市外派遣対象外等

他都市の派遣窓口を紹介	87	広域の派遣として他都市窓口との連携等
通訳者の変更	1	通訳者の事情(病気等)で変更等
日程変更	9	派遣日の変更
相談員	0	通訳派遣を利用せず、相談員が対応した
合計	486	

- (カ) 他都市窓口との連携では、神奈川県及び川崎市との派遣窓口会議を1回実施し、平成28年度の神奈川県全域の派遣についての連携を確認しました。その他、神奈川県警通訳センターと3窓口の協議(要約筆記者派遣について)を1回、神奈川県議会への手話通訳配置に関する協議を3回行ないました。
- (キ) 通訳者との会議・懇談では、非常勤手話通訳者業務調整会議を6回、手話通訳者事業連絡会、要約筆記者事業連絡会を各1回実施しました。また、要約筆記者現任研修会の指導を担う講師との会議を1回開催しました。
- (ク) 区役所への手話通訳モデル配置(中区、戸塚区)について、担当通訳者に対する説明会を2回開催しました。
- (ケ) 手話通訳者及び要約筆記者派遣事業運営委員会については、7月に手話・要約合同で1回、2月に手話・要約で各1回の委員会を開催しました。構成団体は次のとおりです。

<横浜市手話通訳者及び要約筆記者派遣事業運営委員会・構成団体>

		団 体 名
手	話	(一社)横浜市聴覚障害者協会、横浜市中途失聴・難聴者協会 横浜市手話通訳者協会 横浜市障害者社会参加推進センター 横浜市、横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設
要	約	横浜市中途失聴・難聴者協会、(一社)横浜市聴覚障害者協会 横浜市要約筆記者協会 横浜市障害者社会参加推進センター 横浜市、横浜ラポール聴覚障害者情報提供施設

## イ 研修事業

通訳者の研修事業では、自主研修として、手話通訳者に対し登録年次別・課題別・全体研修等を27回、非常勤及び中堅登録手話通訳者に対し専門研修を計5回、手話通訳者・要約筆記者に対し合同研修を2回、計34回の研修を実施しました。要約筆記者に対しては、登録1年次研修(手書き・パソコン各4回)、要約筆記者研修(手書き・パソコン各8回)、合同(1回)、計25回の研修を実施しました。

(ア) 自主研修：手話通訳者研修

a 登録手話通訳者1年次研修(対象者10人)

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	5月9日	オリエンテーション 派遣事例検討	10人	職員3人
2	5月23日	読みとり実技	10人	非常勤手話通訳者1人



3	6月6日	聞きとり実技	10人	非常勤手話通訳者1人 横聴協1人
4	7月4日	各場面模擬通訳Ⅰ	10人	非常勤手話通訳者1人 登録手話通訳者1人 横聴協1人
5	8月1日	各場面模擬通訳Ⅱ	10人	登録手話通訳者1人 横聴協1人
6	9月5日	事例検討	10人	登録手話通訳者1人
7	2月6日	1年次研修まとめ	10人	職員1人

b 登録手話通訳者2年次研修(対象者4人)

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	5月31日	読みとり実技	4人	非常勤手話通訳者2人
2	6月7日	聞き取り実技	4人	非常勤手話通訳者1人 横聴協1人
3	7月26日	模擬通訳	4人	非常勤手話通訳者2人
4	9月27日	事例討議・模擬通訳	3人	非常勤手話通訳者1人 登録手話通訳者1人 職員1人
5	10月25日	ビデオ事例検討・模擬通訳	3人	登録手話通訳者1人
6	11月22日	2年次研修まとめ	3人	職員2人

c 登録手話通訳者3年次研修(対象者7人)

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	6月21日	相談事業と対人援助	7人	職員3人 非常勤手話通訳者1人
2	8月23日	模擬通訳(労働場面)	7人	登録手話通訳者1人 横聴協1人
3	10月18日	問題解決のステップ	7人	世田谷福祉専門学校1人 登録手話通訳者1人
4	12月6日	3年次研修まとめ	6人	職員1人

d 課題別研修(対象者：登録手話通訳者)

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	9月10日	「事例検討」 デマンドコントロールスキーマの実践Ⅱ	62人	非常勤手話通訳者2人 登録手話通訳者1人
2	7月11日	対人通訳の基礎Ⅰ	38人	職員2人
3	10月3日	対人通訳の基礎Ⅱ	39人	職員2人

4	10月15日	読みとり通訳（選択）	7人	非常勤手話通訳者1人
5	11月12日	読みとり実践Ⅰ	30人	非常勤手話通訳者1人
6	11月26日	読みとり実践Ⅱ	30人	非常勤手話通訳者1人

e 手話通訳者全体研修(対象者：全手話通訳者)

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	5月14日	講義「手話通訳の理論と実践～手話から日本語～」	93人	国立障害者リハビリテーションセンター学院教官1人
2	6月25日	講義「聴覚障害者の医療場面での情報提供とサポート」	92人	聴障・医ネット 看護師1人
3	7月2日	講義「手話通訳者にとっての日本語」	93人	世田谷福祉専門学校 1人
4	8月6日	講義・ワークショップ「対人援助とコミュニケーション」	84人	東京女子医科大学 准教授1人

f 横浜市手話通訳者専門研修(対象者：非常勤30人・登録手話通訳者63人)

回	実施日	内 容	参 加		講 師
			非常勤	登録者	
1	6月25日	現在の医療・介護制度の情勢と今後のゆくえ	21人	28人	聴障・医ネット 看護師1人
2	10月17日	オノマトペを利用した通訳を考える	25人	40人	電気通信大学大学院 教授1人
3	11月14日	読取通訳グループワーク	25人	—	職員2人
4	1月16日	司法における手話通訳のあり方	26人	34人	日本手話通訳士協会 理事1人
5	2月13日	ピアスーパービジョン	29人	—	非常勤手話通訳者

g 合同研修（対象者：全手話通訳者・要約筆記者）

回	実施日	内 容	参 加		講 師
			手話	要約	
1	8月27日	講義「聴覚障害者と精神障害を合わせ持つ人とのコミュニケーションについて」	87人	14人	帝京平成大学1人
2	2月4日	講義「通訳者の健康～特殊検診を通して」	68人	8人	港町診療所医師1人

(イ) 自主研修：要約筆記者研修

a 登録1年次研修(対象者：手書き4人、パソコン1人)

※パソコンは対象者(合格者)が1人であったため、効果的な研修実施のため登録2年次の要約筆記者数名に適宜協力を得ました。

回	実施日	内 容	参 加	講 師
1	4月19日	オリエンテーション	手書き3人 パソコン1人	情提職員
		手書き：実技復習	3人	要約筆記者協会2人
		パソコン：実技復習	4人	〃
2	4月26日	手書き 〃	4人	〃
		パソコン 〃	4人	〃
3	5月17日	手書き 〃	4人	〃
		パソコン 〃	6人	〃
4	5月24日	手書き 〃	4人	〃
		パソコン 〃	7人	〃

b 要約筆記者研修(対象者：手書き36人、パソコン44人)

回	実施日	内 容	参 加	講 師	
1	6月1日	手書き	基本技術の確認	28人	要約筆記者協会2人 要約筆記者協会2人
		パソコン	課題発掘	31人	
2	7月6日	手書き	三原則の見直し	27人	要約筆記者協会2人 要約筆記者協会2人
		パソコン	表出の見直し	35人	
3	8月3日	講演「デマンドコントロールスキーマ」	66人	国立障害者リハビリテーションセンター学院 講師1人	
4	9月7日	手書き	基本の要約技術の活用と実践	26人	要約筆記者協会4人 要約筆記者協会4人
		パソコン	連携入力	35人	
5	10月5日	手書き	要約技術の見直し	27人	要約筆記者協会2人 要約筆記者協会2人
		パソコン	自己検証	35人	
6	11月2日	手書き	事例検討	23人	情提職員2人
		パソコン		32人	
7	12月7日	手書き	要約方式の検討	24人	要約筆記者協会2人 要約筆記者協会2人
		パソコン	自己検証(関係)	31人	
8	1月11日	手書き	ノートテイク	26人	要約筆記者協会4人 要約筆記者協会4人
		パソコン	利用者の視点	34人	
9	2月1日	手書き	利用者の視点 全体投影(模擬)	25人	要約筆記者協会2人 要約筆記者協会2人
		パソコン		31人	

(ウ) 派遣研修

職員の業務上のスキルアップを目的とし、次の研修にそれぞれ担当職員を派遣しました。

名 称	期 日	場 所	派遣者
全国要約筆記問題研究集会	6月18日～19日	大 阪 府	職員1人
全聴情協コミュニケーション支援事業担当者研修会	7月20日～22日	京 都 府	職員1人
手話通訳者養成リーダー養成研修会	9月17日～18日	栃 木 県	職員1人
手話通訳士専門研修会	3月15日～17日	国立障害者リハビリテーションセンター学院	職員1人 非常勤手話通訳者1人

(4) 聴覚障害者相談事業

聴覚障害者及び音声または言語機能障害者の日常生活の各種の相談に応じ、個々の実情に即した適切な処遇を図り、聴覚障害者等の福祉の向上に資することを目的として事業を実施しました。

出張計画に基づき、特に高齢ろう者(独居・夫婦世帯)に対しての訪問(自宅・入所施設・入院先等)による相談の拡充を図りました。また、聞こえや補聴器に関する専門相談「聞こえの相談事業」(※横浜市リハビリテーションセンター指定管理事業)については、聴覚障害者相談員とリハセンターの言語聴覚士と連携して相談を実施しています。

ア 平成28年度事業の概況

(ア) ラポールへの来所相談に加えて、来所が困難な高齢ろう者に対しては、聴覚障害者相談員が自宅等を訪問し、対象者の居住地域の地域ケアプラザ等の事業所と連携しながら相談支援を行ないました。このような連携を持つことで、介護保険サービス以外の生活上の困難さや医療面のケアの必要性等、対象者の抱える問題の掘り起こしにつながるとともに、関係機関の担当者等に聴覚障害やコミュニケーション支援を理解していただく機会にもなりました。

<相談内容>(面接相談)

相 談 内 容	実件数		延べ件数	
	件数	割合	件数	割合
医 療	80件	16.0%	161件	18.1%
職 業	25件	5.0%	33件	3.7%
教 育	3件	0.6%	4件	0.4%
住 宅	27件	5.4%	41件	4.6%
生 活	179件	35.8%	303件	34.0%
福 祉	141件	28.2%	227件	25.5%
法 律	24件	4.8%	91件	10.2%
聞こえの相談	21件	4.2%	31件	3.5%
合 計	500件	100.0%	891件	100.0%

( 昨 年 度 )	(428 件)	(724 件)
-----------	---------	---------

<相談の場所>

面 接 場 所	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	
ラポール	505 回	601 回	542 回	618 回	
出張	小 計	150 回	236 回	182 回	273 回
	訪 問	68 回	139 回	99 回	169 回
	同 行	32 回	36 回	22 回	48 回
	同 席	34 回	60 回	55 回	47 回
ケース会議	16 回	1 回	6 回	9 回	
合 計	655 回	837 回	724 回	891 回	

<面接相談以外の対応>

聴覚障害者相談は面接相談を基本としますが、以前より面接以外の方法による相談（電話、FAX、Eメール等）等についても対応しています。

内 容	27 年度	28 年度
電話による相談	580 件	631 件
FAX による相談	298 件	217 件
Eメールによる相談	105 件	121 件
その他(郵便による相談、相談予約のための来所対応等)	89 件	70 件
合 計	1,072 件	1,039 件

<相談者の状況>(障害別の内訳)

種 類	実 人 数			
聴 覚 障 害 者 ( 個 人 )	ろ う 者	137 人	82.5%	77.4%
	難 聴 者	29 人	17.5%	16.4%
	小 計	166 人	100.0%	
健 聴 者 ( 個 人 )		8 人		4.5%
機 関 ・ 団 体		3 人		1.7%
合 計		177 人		100.0%

<障害者(個人)の居住地域>

地 域 名	実人数		地 域 名	実人数		地 域 名	実人数	
鶴 見	12 人	7.3%	旭	11 人	6.7%	戸 塚	5 人	3.0%
神 奈 川	17 人	10.2%	磯 子	1 人	0.6%	栄	6 人	3.6%
西	7 人	4.2%	金 沢	4 人	2.4%	泉	5 人	3.0%
中	7 人	4.2%	港 北	12 人	7.3%	瀬 谷	6 人	3.6%
南	7 人	4.2%	緑	14 人	8.4%	市 外	4 人	2.4%
港 南	15 人	9.1%	青 葉	4 人	2.4%	合 計	166 人	100.0%
保 土 ヶ 谷	19 人	11.4%	都 筑	10 人	6.0%			

- (イ) 「聞こえの相談事業」については、平成 28 年度第一回運営委員会（平成 28 年 6 月 30 日）まで、同運営委員会の事務局を担いました。※平成 28 年度第二回運営委員会からは、指定管理者である横浜市リハビリテーションセンターが事務局を担うこととなりました。
- (ウ) 関連事業である横浜市障害者社会参加推進センター主催の講座「聞こえと補聴器」にて事業の説明を行ないました。
- (エ) 関東ろうあ者相談員連絡会(年 5 回)、全国ろうあ者相談員研修会(京都府)に参加し、相談業務の一助としました。
- (オ) 相談事業及び通訳派遣事業の利用促進を図るため、年末年始のお知らせと併せて案内チラシを作成し、単身・高齢者世帯等に送付しました。

(5) 普及・啓発事業

聴覚障害者情報提供施設事業の PR を行ない利用促進を図るとともに、聴覚障害者団体等と連携しながら、市民に対する聴覚障害に関する理解促進に取り組みました。

ア 平成 28 年度事業の概況

(7) 普及・啓発事業における講師派遣

	区 分	派遣件数	参加者数	備 考
1	国・県機関等	2 件	100 人	横浜地裁「要配慮者研修」
2	市 機 関	2 件	60 人	環境創造局、健康福祉局
3	教 育 機 関	2 件	364 人	学校等
4	企 業 等	1 件	60 人	病院職員研修
5	聴 障 団 体	7 件	142 人	「浜の会」(ろうヘルパー連絡会かもめの会主催) デイサービス等
6	そ の 他	1 件	40 人	ボランティア団体
7	区 職 員 研 修	16 件	255 人	平成 28～29 年度の事業。横浜市聴覚障害者協会及び横浜市中途失聴・難聴者協会の協力を得て実施
延べ参加者数 1,021 人				

(イ) 広報関係

関係機関・団体及び通訳者に対して聴覚障害者情報提供施設事業を紹介するため、機関紙「横浜ウエーブ」を年 6 回、各 400 部発行しました。そのほか、横浜市聴覚障害者協会の会報「はま」に 600 部同封し、横浜市聴覚障害者協会主催「第 29 回新年（新春）のつどい」にて 300 部配布しました。写真を入れ、文字の大きさを統一するなど、見やすいようにレイアウトを工夫しています。また、ラポールのホームページにも掲載しました。

(ウ) 障害者団体行事等での事業 PR

横浜市聴覚障害者協会主催「第 29 回新年（新春）のつどい」（2 月 12 日南公会堂）にてブースを設け、来場者に対し情報提供施設事業等について PR しました。

(6) ビデオライブラリー事業

聴覚障害者用に字幕を挿入したビデオ及び CS 障害者専用放送統一機構「目で聴くテレビ」提供番組、通訳者研修教材ビデオの自主制作を行ない、字幕・手話入りビデオの貸出を行ないました。また、福祉サービス等に関する手話動画を作成し、ホームページにて配信しました。

ア 平成 28 年度事業の概況

(ア) ライブラリーの制作では、自主制作 50 作品の他、文化事業課と連携した取組として映画等への字幕挿入等を行ないました。字幕制作作業については、字幕サークル「まじっく」の協力を得ました。

種 類	制作数	作 品 名 等	備 考
自 主 制 作	2 作品	「つつうらうら～馬の博物館」 「いきいきワイド～遠隔手話通訳対応が始まりました～」	オリジナル(CS 障害者専用放送統一機構番組提供含む)
	8 作品	情報提供施設からのお知らせ 「ヨッテク案内」 「字幕付映画会案内」×2 作品 「ラポールの祭典案内」 「区役所窓口の手話通訳対応の充実」 「特定健康診査受診のすすめ」 「年末年始休館のお知らせ」 「新年の挨拶・インフルエンザ注意」	オリジナル(ホームページ上で手話と字幕による情報発信)
	40 作品	通訳者研修講演 手話通訳者研修教材	通訳者のスキルアップ教材
ラポール事業紹介(字幕・アフレコ挿入)	1 作品	横浜ラポール施設紹介映像	ラポール文化企画事業との連携
	1 作品	横浜ラポール美術展紹介映像	
字幕付映画上映会等の字幕制作	3 作品	字幕付映画会「ひまわりと子犬の 7 日間」・「母と暮らせば」 字幕付舞台「チリンのすず」	ラポール文化企画事業との連携(字幕制作と投影)

(イ) ビデオライブラリーの貸出は 237 本の実績でした。

(ウ) 全国聴覚障害者情報提供施設協議会主催のソフト制作担当職員研修会(兵庫県)に参加し、業務の一助としました。

(7) 視聴覚機器貸出事業

聴覚障害者団体や聴覚障害者を支援するサークル等に視聴覚機器の貸出を行ないました。機器点検は年 10 回実施しました。

内 訳	在庫数	件 数
ス ク リ ー ン	6	156
磁 気 ル ー プ	2	25
液 晶 プ ロ ジ ェ ク タ ー	2	128
テ ー プ レ コ ー ダ ー	3	83
ビ デ オ カ メ ラ	1	46
O H C + プ ロ ジ ェ ク タ ー	5	194
V H S + D V D フ ー ル - レ イ テ ー ム イ ス ク レ コ ー タ ー	1	58
パ ソ コ ン 文 字 通 訳 用 機 器	4	750
パ ソ コ ン 文 字 通 訳 用 機 器 個 人 用	2	145
合 計 (昨年度)		1,585 (1,113)

(8) 手話通訳者及び要約筆記者養成事業等への協力

通訳者の育成過程において、登録試験合格前と合格後の一貫性は極めて重要であるため、派遣事業を担う立場で助言を行なう等、聴覚障害者団体が実施する養成・認定事業に積極的に協力しました。

ア 平成 28 年度事業の概況

(7) (一社)横浜市聴覚障害者協会(以下：横聴協)関係

会議名	回数等
手話養成運営委員会	計 10 回
手話養成講師会	計 3 回
手話養成講師研修会	計 4 回
手話養成講師ヒアリング	計 3 回
養成講習会見学	随時
登録試験対策講座協力	計 2 回
全国統一試験説明会	1 回 (全国手話研修センターにて開催)
横浜市手話通訳者登録試験(統一試験)	前日準備、当日運営協力、審査会準備作業等
同 試験委員会	計 3 回
同 審査会	計 3 回
平成 29 年度手話養成講習会説明・選考会	計 3 回

(4) 横浜市中途失聴・難聴者協会(以下：浜難聴)関係

会議名	回数等
要約筆記者養成検討委員会	1 回
全国統一試験説明会	1 回 (国立オリンピックセンターにて開催)
横浜市要約筆記者登録試験(統一試験)	前日準備、当日運営協力等
同 試験委員会	計 3 回



## (9) その他の事業

## ア 頸肩腕特殊健康診断

非常勤手話通訳者、登録通訳者(月平均 5 件以上稼働)及び情報提供施設職員については 7 月と 1 月に直接検診を実施、登録手話・要約筆記者全員には年 1 回問診票による予備検診を実施し、222 人が受診しました。予備検診の結果、直接検診が必要な通訳者は 7 月に受診しました。また、結果により医師から 2 回目の検診が必要と判断された場合は、必ず受診してもらうこととしました。

## &lt;直接検診結果&gt;

種 類	回	A	B1	B2	B3	C	計	判定基準
非常勤手話通訳者	1	26	2	0	0	0	28	A :異常ありません B1 :疲労回復に心がけましょう B2 :働き方の見直しと改善を要します B3 :治療と業務軽減を要します C :休業治療を要します (日本産業衛生学会頸肩腕障害研究会)
	2	28	2	0	0	0	30	
登録手話通訳者・要約筆記者	1	135	0	0	0	0	135	
	2	51	0	0	0	0	51	
情報提供施設職員	1	8	2	0	0	0	10	
	2	9	1	0	0	0	10	

## イ 全国組織等との連携

## (7) (特非) 全国聴覚障害者情報提供施設関係

第 12 回聴覚障害者情報提供施設総会及び大会(大阪府)、関東ブロック会議(川崎市)に参加しました。また、他の聴覚障害者情報提供施設と連携し、CS 障害者専用放送統一機構に番組を提供しました。

## (i) (一財) 全日本ろうあ連盟関係

平成 28 年 4 月に発生した熊本地震について、(一財) 全日本ろうあ連盟を中心に組織された「聴覚障害者災害救援中央本部」からの依頼に応じ職員 2 人を被災地に派遣(5/9~13:1 人、5/16~18:1 人)し、避難所等でのコミュニケーション支援に従事しました。

## ウ 実習、視察対応等

## (7) 実習生の受け入れ

国立障害者リハビリテーションセンター学院手話通訳学科 2 年生 (2 人)、日本福祉教育専門学校 2 年生 (1 人)

## (i) 視察、見学

大阪市役所、相模原市役所、第 49 回全国手話通訳問題研究集会 (A 講座) 参加者、横浜市議会特別委員会、さいたま市役所、厚生労働省、神奈川県聴覚障害者協会、市立ろう特別支援学校高等部 3 年生、聴力障害者情報文化センター

エ 行事等への出席

(7) 式典来賓登壇

横浜市聴覚障害者の集い、神奈川県ろうあ者大会、横浜市聴覚障害協会新年（新春）のつどい

(4) 講師派遣

横浜市手話通訳者養成講習会、東京都保健福祉局研修会、講座「聞こえと補聴器」

オ タブレット端末を活用した手話通訳

障害者差別解消法の施行に伴う横浜市の新たな取組として始まった事業です（平成28年5月27日～）。区役所窓口にて、手話通訳を必要とする方が来庁された際、横浜ラポールの手話通訳者と区役所窓口をタブレット端末で結び、画像と音声をとおして、手話通訳者を介して窓口対応を行なうものです。

<各区役所の対応件数>

区役所	件数	区役所	件数	区役所	件数		
鶴見	8	西	8	栄	7		
神奈川	9	南	0	旭	4		
港北	2	港南	3	戸塚	2		
緑	4	金沢	0	瀬谷	1		
都筑	9	磯子	3	泉	4		
青葉	5	中	6	保土ヶ谷	8	件数合計	83件

## 5 広報事業

ラポールの利用を促進し、障害者の社会参加及び障害者とその他の市民相互の交流を図るため、次のとおり実施しました。

### (1) ラポール催し物案内「ラポラポ」の発行

広報紙「ラポラポ」を毎月 5,800 部発行し、行政機関、地域活動ホーム等の障害児・者施設をはじめ、障害者関係団体約 500 か所に配布した他、市営地下鉄の PR ボックスに配架を行いました。また、全国障害者スポーツ大会の横浜選手団の結果報告として「ラポラポ増刊号」を発行しました。

さらに、「ラポラポ」拡大版の作成や、読み上げ装置(スピーチオ)を総合受付に設置することで、視覚に障害のある方や高齢者に対しても情報提供の充実を図りました。

### (2) 事業概要作成

### (3) 施設紹介動画の作成

施設紹介動画「横浜ラポールのご紹介～施設編～」を作成し、YouTube 事業団チャンネルに掲載しました。

### (4) 視察・見学者への施設案内

件数：47 件（昨年度 55 件）

人数：733 人（昨年度 767 人）

### (5) インターネットによる広報

ホームページを活用し、広く施設情報を紹介しました。また、横浜市の「横浜カレンダー（イベント情報検索システム）」等を活用して、スポーツ・文化事業の教室情報やお知らせ等を定期的に発信しました。

### (6) 「ラポールの祭典」実施

今年度も「みんな笑顔！」をテーマにラポールの祭典を実施しました。横浜市立小机小学校マーチングバンドによるオープニングセレモニーから始まり、車椅子バスケットボール体験、乗馬体験、おもちゃの広場、小型ヨット体験等、約 20 に及ぶイベントを実施しました。

実施日：9月4日

来場者数：2,311 人

## 6 その他

各種研修・訓練等の実施により、施設の円滑な運営や安全管理を進めるとともに職員の業務に対する意識の向上に努めました。

### (1) 職員研修

障害者の多様化するニーズに的確に対応するため、職員一人ひとりの育成が非常に重要となっています。ラポールでは人材育成を目的とした研修を積極的に実施し、知識や対応力を高めています。利用者への対応や施設の安全管理等を目的とした職員及び非常勤職員を対象に行った研修は次のとおりです。

<職員研修>

研修名	回数	参加者数
個人情報保護に関する研修	随時	全職員(含委託業者)
救急救命研修会(7月19日午前・午後)	2回	32人
人権研修(11月7日)	1回	21人
安全対策研修(1月19日)	1回	26人
スポーツ施設内救助訓練(非常勤職員対象)	8回	延べ34人
手話研修(非常勤職員対象)	16回	延べ63人

### (2) 防災対策

ラポールは障害者を中心とした市民開放施設であり、災害時の被害を最小限とするため、日ごろから職員をはじめ館内の障害者団体職員や委託先業者等も含め、防災に対する共通認識を持ち、災害発生時には情報を迅速に収集するとともに初期消火・利用者の避難誘導等に努める訓練を行いました。

<自衛消防組織の編成及び任務>

自衛 消防隊長 副隊長 防災盤監視 (館長) — (副館長) — (警備)	○安全防御班：館内設備の確認 (設備)
	○救護班：怪我人の処置 (受付看護師)
	○通報連絡班：消防機関への連絡、館内放送 (管理・文化事業課長)
	○初期消火班：消火器等による初期消火活動 (スポーツ課事業推進担当課長)
	○避難誘導班①<地下・1階>：館内利用者の避難誘導 (スポーツ課施設運営担当課長)
	○避難誘導班②<2階>：館内利用者の避難誘導 (スポーツ課施設運営担当課長)
	○避難誘導班③<3階>：館内利用者の避難誘導 (聴覚障害支援課長)

< 消防訓練の実施状況 >

実施日	内 容
6月28日	火災発生を想定したラポール館内での防災訓練
11月30日	火災を想定したリハセンター・横浜市保健医療センター及びラポールによる3施設合同の防災訓練

(3) 運営委員会の開催

ラポールの運営に障害者等利用者の意見を反映するため、関係者で構成する運営委員会を開催しました。

開催状況：年2回(6月21日・12月2日)

(4) 施設利用状況

障害者を優先的に施設の貸出を行い、その状況については次のとおりです。

ア 利用区分による利用状況

	利 用 者 数		昨年度
個人利用数	184,313 人	(100.0%)	178,371 人
障害者	128,756 人	(69.9%)	124,167 人
介護人等	36,828 人	(20.0%)	35,478 人
一般	18,729 人	(10.1%)	18,726 人
団体利用数	260,310 人 (7,977 団体)	(100.0%)	274,764 人 (7,308 団体)
障害者	90,692 人	(34.8%)	99,436 人
介護人等	42,248 人	(16.2%)	42,920 人
一般	127,370 人	(49.0%)	132,408 人
合 計	444,623 人 (1 日平均 1,288.8 人)		453,135 人

イ 障害別による利用状況(個人利用の内訳)

内 訳	利 用 者 数		昨年度
肢体不自由	67,439 人	(52.4%)	66,621 人
知的障害	30,080 人	(23.4%)	29,039 人
精神障害	11,726 人	(9.1%)	9,942 人
視覚障害	5,164 人	(4.0%)	4,535 人

内部機能障害	5,262人 (4.1%)	4,886人
重複障害	5,681人 (4.4%)	5,628人
聴覚障害	3,404人 (2.6%)	3,516人
合計	128,756人 (100.0%)	124,167人

ウ 施設別区分による利用状況

	利用者数	昨年度
スポーツ施設	269,719人 (100.0%)	262,946人
プール	69,139人 (25.6%)	62,444人
メインアリーナ	65,849人 (24.4%)	64,082人
フィットネスルーム	61,044人 (22.6%)	61,419人
サブアリーナ	27,141人 (10.1%)	26,205人
屋外グラウンド	14,370人 (5.4%)	15,975人
ボウリングルーム	14,339人 (5.3%)	14,755人
地下グラウンド	10,717人 (4.0%)	11,367人
テニスコート	7,120人 (2.6%)	6,699人
文化施設	174,904人 (100.0%)	190,188人
ラポールシアター	52,141人 (29.8%)	46,995人
大会議室	30,384人 (17.4%)	36,537人
ラポールボックス	27,175人 (15.5%)	40,031人
ラポール座	22,276人 (12.7%)	21,998人
和室	12,395人 (7.1%)	12,338人
創作工房	10,050人 (5.7%)	10,018人
小会議室	8,929人 (5.1%)	10,929人
おもちゃ図書館	11,501人 (6.6%)	11,250人
聴覚障害者情報提供施設 <sup>1)</sup>	53人 (0.1%)	92人

1) 聴覚障害者用字幕付きビデオ貸出人数